60年度 神戸市少年サッカー指導者講習会

中級コースとレフリーコースを開催

市内の少年サッカー指導者を対象にした、指導者講習会中級者コースと、審判育成を目的とした、レフリーコースが2月から3月にかけて行われた。

指導者講習会中級者コースは今回も18人が参加、2月2日から23日まで火、金、日曜日の計10日間、御影工業高校を中心に行われた。

市内の少年サッカーは年々盛んになる一方で、60年度の市少年リーグ参加チームは184チームを数え、参加者は 3,600人を越えた。少年指導者の情熱と努力が実り、底辺の広がりは、目を見はるものがあるが、それに伴う指導者数、資質向上などは最大の課題である。多くの金の卵を大切に育て、将来に開花させるためには少年期の指導が最も大切であるといっても過言ではない。“たかが子供のサッカー”と甘く見るのは大きな誤ちで、子供のサッカーであるがゆえに、ここでの指導方法が適切でなければ、せっかくの芽を摘んでしまうことになる。

今回集まった18人は実技14時間、講義10時間のコースをみっちり習得し、特に最終日に行われた指導実習では、自ら立てた指導案を元に熱の入った実技が行われた。その中身は濃く、講師の先生も驚くほどの素晴しい内容だった。講習会で学んだことを今後各チームに戻って指導に当たるわけであるが、きっと子供たちも一層、情熱をもった教えに喜び、ますますサッカーが好きになるに違いない。

一方、レフリーコースは2月8日、27日、王子登山研習所で講義を約2時間づつ、また実技指導が第2回神戸兵庫ライオンズ杯春季新人戦を利用して行われた。今回は、すでに審判資格を取得した人を対象に、やや専門的な知識も身につけた。

審判の資質についても少年サッカーでは、大変重要な課題である。子供たちは一般的なルールはもちろん、接触プレーの方法や、タックルなど微妙な反則の基準など、試合の中で学ぶ。この基準があいまいであると、ある時は思い切ったプレーができなくなったり、今まで許されていたプレーが反則にとられたりと、いったことで迷いなやむことになる。

実技指導では試合中の主審、線審の動きを徹底的に指導、時にはハーフタイムで厳しい要求を受け、後半息切れをおこした方もおられたかと思うが、子供が一生懸命プレーするのと同様に、大人のレフリーも誠意と愛情をもって笛を吹くことが大切であろう。(天野)

主催　神戸市サッカー協会
後援　財団法人ユーハイム体育スポーツ振興会
講師　藤田利明（市協会審判委員長）ほか
　　日本サッカー協会公認コーチ、
　　神戸市協会技術委員、少年委員

中級者コース参加指導者（順不同）
河田安弘、北岡章治、古宮重信、坂野公治、菅原裕司、高橋和幸、武石信行、武内一雄、鶴谷之人、寺岡親永、西海正己、広瀬　治、藤本　勇、堀江敏治、名井康人、渡辺正見、和田徳男、河野勝一、

レフリーコース参加指導者（順不同）
青山京一、赤崎貴志、秋山和義、安部正美、有吉時男、安東憲道、磯田征一、市場　博、乾　　進、入潮慎一、上野　明、岡部国雄、岡部京子、大久保直彦、大谷五三六、大塚靖雄、河口秀樹、河田安弘、北岡章治、呉山信義、正橋達雄、白本原靖生、鈴木幸二、鈴木成文、曽根　勉、高木繁一、高橋和幸、武内一雄、田中康男、谷川壮一、鶴谷之人、土井通弘、中城卓己、中津武良、長畠克義、林　幸男、日原素人、福井元成、渕田一幸、冨士信男、藤本勇、堀江大陸、前田日出男、松山欣嗣、丸山明夫、森下信二、森田　隆、山崎義明、山田繁男、四本　修、鷲尾靖江、渡辺清一、

兵庫県スポーツ少年団大会

高丘西が初代チャンピオン

昭和60年度県スポーツ少年団交流大会は、2月2日、9日ポートアイランド球技場ほかで行われ、決勝で明石の高丘西が神戸ＦＣを破り優勝した。

県下のスポーツ少年団登録チームのうち、24チームが参加し、2日に1次リーグが、3チーム、8ブロックに分かれて行われ、上位1チームづつで決勝トーナメントが9日に行われた。市内からは神戸ＦＣ、神陵台ほか6チームが参加した。

▷決勝（2月9日、ポートアイランド）

神戸ＦＣ２ ｛2－1 / 0－2｝ ３明石高丘西

決勝戦は神戸ＦＣの先攻で始まった。6分17分と速攻から得点し優位に進めたが、高丘西もよくねばり前半終了間際に一点をかえした。後半11分には高丘西がＰＫを得て同点に追いつき、同点のままむかえた後半18分、ゴール前のＦＫを高丘西が決め逆転に成功、第1回大会の優勝を飾った。

▷１次リーグ（2月2日、ポートアイランド球技場、みさき少年サッカー場）

Ａ組	神陵	山崎	塚口
神陵台		○2-0	○4-0
山　崎	×0-2		○1-0
塚　口	×0-4	×0-1	

Ｂ組	小宅	成徳	塚口
小　宅		○1-0	○1-0
成　徳	×0-1		△0-0
南塚口	×0-1	△0-0	

Ｃ組	神Ａ	揖西	園田
神戸Ａ		△1-1	○5-0
揖西西	△1-1		○5-0
園　田	×0-5	×0-5	

Ｄ組	船場	川西	尾崎
船　場		○4-0	○5-0
川　西	×0-4		△0-0
尾　崎	×0-5	△0-0	

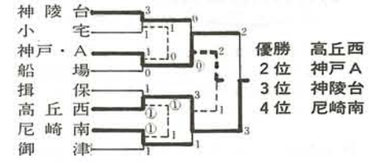
Ｅ組	揖保	太陽	神Ｂ
揖　保		○5-1	○8-1
太　陽	×1-5		○4-1
神戸Ｂ	×1-8	×1-4	

Ｆ組	明石	明倫	安室
明　石		○2-0	○4-0
明　倫	×0-2		○4-0
安　室	×0-4	×0-4	

Ｇ組	尾南	多井	揖東
尾崎南		○2-1	○3-0
多井畑	×1-2		○7-0
揖西東	×0-3	×0-7	

Ｈ組	御津	東灘	杭瀬
御　津		○3-1	○3-0
東　灘	×1-3		○4-1
杭　瀬	×0-3	×1-4	

▷決勝トーナメント（2月9日、ポーアイ）

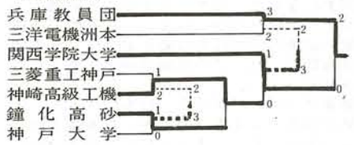


第11回神戸市社会人リーグ選手権大会結果

兵庫カップ兵庫教員７連覇！

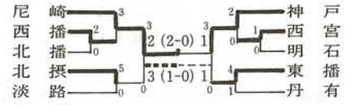
第12回兵庫カップ結果

（1月26日、2月2日、9日、16日、神戸中央球技場）



60年度兵庫県社会人都市対抗戦結果

（3月9日、16日、23日、神戸中央ほか）



神戸市社会人運営会議予定

次回　7月17日(木)

8月21日、9月18日、10月16日、11月20 12月18日、1月22日、2月19日、3月12日、3月19日。いずれも18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ
東灘区御影本町4丁目11-9　阪神御影駅南側西へ30m　☎078(412)2601

塩谷スポーツ
兵庫区大開通7丁目5-26　高速大開駅東　☎078(576)0870

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店　☎078(391)0895
ブレザーショップ、トーアロード店　☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街店　☎078(332)0141

ヤノ運動用品
本　　店　中央区三宮町3-8-1　☎078(391)1121
ファイブ店　中央区三宮町2-7-8　☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

スメラ
湊川店　湊川プラザ2階　☎078(511)2234
鈴蘭台店　ダイエー西側　☎078(592)0470

加茂 トアロード店
中央区三宮町3－8－8　国鉄元町駅南側東へ100m　☎078(392)0234

サッカーショップ ＰＫＦ
中央区下山手通3丁目3-10　☎078(332)5519

ワールドスポーツ
東灘区深江北町4丁目7－3　阪神深江駅北側信号西　☎078(453)2186

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2－1－10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

Juchheim's
Für große und kleine Feinschmecker
Kehr-Frankfurt am Main
Seit 1892
ユーハイム

月刊
神戸のサッカー
1986　1・2月号
発行所　神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651　☎(078)232-0753
発行人および編集人　一北　四郎
神戸市灘区上野通6丁目3－12
〒657　☎(078)861-3100
毎月1回10日発行 購読料1部50円

第12回神戸ジュニアサッカー
ウインター・フェスティバル

多井畑、小６の部を制覇！
小５の部は神戸ＦＣボーイズが優勝

第13回ジュニア・サッカー・ウインター・フェスティバルは1月5日から7日まで神戸中央メインほか5会場を使って行われた。

今年は中学生部門で読売（東京）、イーグルスユナイテッド（千葉）、ヤマハ(静岡)、など関東、東海の強豪チームを招き、好ゲームが展開された。最終日の7日に各部の決勝戦が行われ、中2以下の部では愛知と読売が大接戦の末両者優勝、中1以下の部では読売が、小6以下では地元多井畑、小5以下で神戸ＦＣがそれぞれ優勝を飾った。

中2以下の部決勝では、愛知と読売が開始から激しい攻防となり1－1の同点で延長に絡れ込んだが両者譲らず優勝を決めた。読売、愛知とも個人の能力に優れ、クラブチームの持ち味を十分発揮し見ごたえのある決勝戦となった。中1以下の部でも読売がイーグルス、ユナイテッドを1－0で下し優勝した。中学生の部では関東勢の活躍が目立った。読売はトップチームが日本リーグの強豪だけあり、中学生はその予備軍として高い戦術眼を持ち合わせている。クラブチームとしての一つの理想がここに見られた。

小6以下の部では多井畑が決勝戦で交野を攻め込んで2－0で見事優勝を飾った。

小5以下の部では神戸ＦＣが強豪松山ＳＳを延長の末破って優勝した。

第12回ウインター・フェスティバル結果

【中学2年生以下の部】（一次リーグ）
Ａ組①愛知ＦＣ３勝　②上野ＦＣ２勝１敗
　③櫨原ＦＣ１勝２敗④神戸ＦＣ３敗
Ｂ組①読売ＳＣ３勝　②神野ＳＣ２勝１敗
　③米子ＳＣ１勝２敗④灘中３敗

（決勝トーナメント）
愛知ＦＣ　3
神野ＳＣ　0
上野ＦＣ　0
読売ＳＣ　1
愛知ＦＣ　1
上野ＦＣ　0

（下位トーナメント）
櫨原ＦＣ　1
灘　中　0
神戸ＦＣ　1
米子ＦＣ　0
櫨原ＦＣ　0
神戸ＦＣ　3

【中学１年生以下の部】（一次リーグ）
Ａ組①読売ＳＣ３勝　②交野ＦＣ２勝１敗
　③神戸ＦＣ１勝２敗④大磯ＳＣ３敗
Ｂ組①イーグルス・ユナイテッド２勝１分
　②千歳ＳＣ２勝１敗③ヤマハＳＣ１勝２敗
　④枚方ＦＣ１分２敗

（決勝トーナメント）
読売ＳＣ　2
千歳ＳＣ　0
交野ＦＣ　1
イーグルス　2
読売ＳＣ　1
イーグルス　0

（下位トーナメント）
神戸ＦＣ　2
枚方ＦＣ　1
大磯ＳＣ　0
ヤマハＳＣ　0
神戸ＦＣ　3
大磯ＳＣ　0

【小６以下の部】（一次リーグ）
Ａ組①西日本選抜２勝１分　②神戸ＦＣ１勝２分　③東舞子１勝１分１敗　④長尾３敗
Ｂ組①多井畑３勝　②交野ＦＣ２勝１敗
　③ひよどり台１勝２敗　④津山ＳＳ３敗
Ｃ組①枚方ＦＣ２勝１敗②西宮ＳＳ１勝２分
　③神陵台１勝１分１敗④鈴蘭台１分２敗
Ｄ組①米子ＳＳ２勝１分②東灘１勝１分１敗
　③千歳１勝１分１敗④高石中央１分２敗

（決勝トーナメント）　神戸中央メイン
西日本選抜　0
西宮ＳＳ　1
交野ＦＣ　1
米子ＳＳ　0
神戸ＦＣ　0
枚方ＦＣ　0
多井畑　2
東灘　0
西日本選抜　1
多井畑　0
多井畑　優勝

小６の部優勝 ---- 河本市協会々長より優勝楯を受ける多井畑ＳＣ

【小学５年以下の部】（一次リーグ）
Ａ組①明治北ＳＣ３勝　②神戸ＦＣ１勝１分１敗　③米子ＳＳ１勝２敗④御津１分２敗
Ｂ組①上野ＦＣ３勝　②松山ＳＳ２勝１分
　③津山ＳＳ１勝２敗④加納西ＪＳＣ３敗

（決勝トーナメント）
明治北　0
松山ＳＳ　4
神戸ＦＣ　2
上野ＦＣ　1
明治北　1
神戸ＦＣ　2

（下位トーナメント）
米子ＳＳ　3
加納西　1
御津ＳＳ　1
津山ＳＳ　1
米子ＳＳ　1
御津ＳＳ　0

第２回 神戸兵庫
ライオンズ杯
春季新人戦

千歳ＳＣ初優勝

第2回神戸兵庫ライオンズ杯争奪春季新人戦は2月9日から3月9日まで御崎少年サッカー場で行われた。決勝は実力的に優位に立つ千歳ＳＣと昨年の覇者、神戸ＦＣとの間で行われ、延長戦の末、3－1で千歳が初優勝を飾った。

千歳は決勝まで順調に勝ち進み、決勝でも一度はリードを許したものの同点に追いつき延長で突き放した。一方、神戸ＦＣは準決勝で高倉台ＳＣにＰＫ戦の末進出を決めたが、千歳の前に二連覇の夢は破れた。

なお、上位4位までのチームは5月に行われる全日本少年大会神戸市予選でシードされた。また、この大会で活躍した選手で神戸市選抜が2チーム編成され、3月29日30日市内で行われる第18回都市対抗選抜大会に参加した。

▷決勝（3月9日、御崎少年）

千歳ＳＣ　3 ｛0－0 / 1－1 / 1－0 / 1－0｝ 1　神戸ＦＣボーイズ

千歳は開始から押し気味に試合を進めたが、体を張って守る神戸ＦＣのゴールを破ることができず、前半を0－0のまま終えた。均衡を破ったのは意外にも神戸ＦＣだった。後半13分右サイドで得たＦＫをＣＦ那須が頭で合わせてゴールを決めた。しかし千歳は焦らず攻め込み17分ゴール前で反則を誘いＦＫを得た。12メートルのシュートを武田が決めて同点。18分、神戸ＦＣ亀谷の左サイドからのパスを北田がボレーシュートを放ったがポストに当ってゴールならず延長戦に絡れ込んだ。

延長前半1分、千歳武田のシュートを神戸ＦＣ・ＧＫがファンブル、それをＣＦ山本が見のがさずプッシュしゴールを決めた。さらに延長後半1分にも、今度は山本の強烈なシュートからのこぼれだまを野村がシュートし試合を決定づけた。

千歳は前半こそ無得点だったが、吉田、武田らのボールコントロールの良い選手が中盤を組み立て、ＣＦ山本、右ウイング上村の突破を生かし、攻撃力では他のチームを圧倒していた。

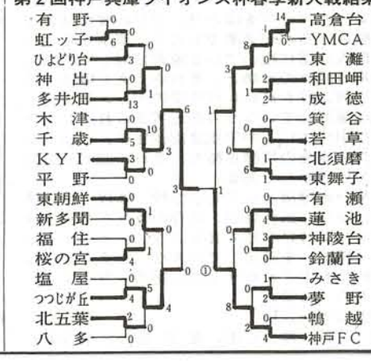
このほか、神戸ＦＣにＰＫ戦で敗れた高倉台、4位入賞したつつじが丘ファミリークラブもよく健闘した。また、千歳に敗れた多井畑ＳＣも侮れないチームであった。

都市対抗に出場する選手は以下の通り

〈神戸市選抜Ａ〉監督　永浜和紀
コーチ　伊窪吉和　　コーチ　岡部国雄
朝　晋、藤本　勲、大場淳司、上村英明、吉田雅広、武田英俊、米村基宏、山本浩司、（以上千歳ＳＣ）玉田満正、西薮祐伴、高橋亮輔、隅田克重、河畠裕次郎（以上つつじが丘ＳＣ）、有吉智規（本津ＳＣ）、三宅朝則、岡部浩一郎（以上夢野ＳＣ）宮本創二（成徳ＪＳＣ）

〈神戸市選抜Ｂ〉
監督　天野　泰男　コーチ　村田　文夫
笠原　治（鵯越ＳＣ）、宮崎大輔、小林寿夫、宮本　優、位田真規、久住拡寛、(以上高倉台ＳＣ）、田村良介、富田周平、中村征司、祖川　治、那須健司、北田伸行、(以上神戸ＦＣ）、春　正一郎、中嶋英雄（以上みさきＦＣ）伊勢崎レオ、久治克　（以上ひよどり台ＳＣ）、秋田俊司（虹ッ子ＳＣ）

第２回神戸兵庫ライオンズ杯春季新人戦結果



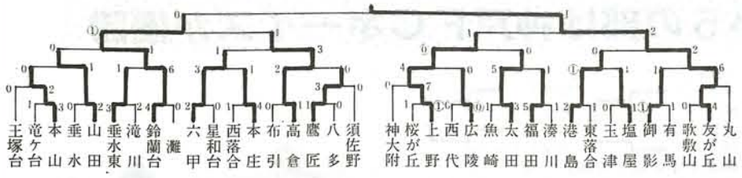
第30回神戸市中学新人大会　友が丘中 初優勝

第36回神戸市中学新人戦大会は、1月15日から2月9日まで、市内中学校会場で行われた。決勝は9日、六甲中で14時に開始され、友が丘中が1—0で鈴蘭台中を破った。雌雄の末、念願の初優勝を飾った友が丘、実力No.1の鈴蘭台の活躍が目立った大会だった。

61年度の展望を占ううえで、大きなウエートをしめる本大会は例年になくレベルが高く、神戸市再建近しと感じるものがあった。決勝に進出した友が丘中と、鈴蘭台中は、初戦から安定した勝ちっぷりで、他を圧倒していた。共に個々の技術が安定している両チームは、一進一退の好ゲームを展開したが、気迫にまさる友が丘中が1点を守り切った。(山名)

▷優　勝　友が丘中　　▷第3位　上野中
▷第2位　鈴蘭台中　　▷　〃　高倉中

第36回　神戸市中学新人大会結果



御原中(淡路)決勝で高丘中(明石)を降す

第5回兵庫県中学校新人大会

第5回兵庫県中学校新人大会は、2月16日と23日の両日、高倉中と竜が台中で、各地区代表の8チームを集めて行われた。神戸市代表には市新人戦優勝の友が丘中が出場した。

▷決　勝（2月23日）

御原 4 { 3 (2—1 / 1—2) 3 ; 0 (0—0 / 0—0) 0 ; 1 (0—0 / 1—0) 0 } 3 高丘

〔評〕一進一退の決勝にふさわしい好ゲームであったが、粘る御原が高丘を振り切って優勝した。

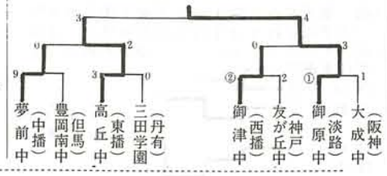
前半13分御原、吉田が中盤からの縦パスを右すみに先制すると16分には高丘、松本が同じ形で決めて同点としたが、20分には、御原、平野が吉田からのヘディングパスをうまく決めて2対1とした。

後半には双方1点ずつを加えたが、終了寸前に高丘は、浜のヘディングシュートで、再び同点に追いついた。

延長に入ってからは、高丘の個人技を中心としたうまい試合運びが見られたが、得点には結びつかず、再延長にもつれこんだ。

再延長の後半3分、疲れの見え始めた高丘に対して、御原、福岡の右からのセンターリングが、左ゴールポストとGKに当ってゴールインし、勝負が決った。

第5回兵庫県中学校新人大会結果



神戸市中学生(2年)選抜　清水で好成績

第4回全国中学生選抜清水招待大会に参加

神戸市中2選抜チームは1月3日から6日まで、清水市へ遠征し、第4回全国中学生選抜清水招待大会に出場、1次リーグ3戦3勝で念願の1位で決勝トーナメントへ進出し、清水トレセン中3と対戦した。前半0—0のゲームは、神戸の集中力と早い球離れが成功したと思われ、高いレベルのサッカーを直接肌で感じる事ができたと同時に、戦い方によっては好結果が生めるという自信につながった。

この清水遠征を足がかりとして、神戸市選抜チームとしては今後定期的に練習会を持ち、目先の結果にこだわらず、個人の技術・戦術のレベルアップをはかり、より高度な試合を経験させる事が必要であろう。清水が強いのは個人が常に抱いている練習に対しての厳しい取り組みの姿勢と、それを支える環境、それに何よりも高いレベルでのゲーム数が多く、切磋琢磨しているからだと考えられる。小学生は中学生に、中学生は高校生に、というように一歩先の目標を持ち、それに向って努力しているからである。

神戸市選抜としても小学校、高校との連携をはかり、試合運び、試合の流れなどが自分自身で瞬時に判断できるように、そのような場（環境）を設定していきたい。そして、人間的にもすぐれたサッカー選手に育って欲しいものである。

【参加チーム】
刈　谷、神戸市、庵原郡、清水六中、神奈川県、蓮崎市、塩釜FC、清水二中、京都府、横浜市、清水トレセン中3、清水五中、千葉県、三重県トレセン、静岡県、清水四中、

【試　合】
▷1月3日(練習試合)神戸　2—1　清水四中
立ちあがりから動きが悪く8分に失点。後半8分小野山ドリブルシュート。18分坂中がプッシュ。
▷1月4日(リーグ戦)神戸　3—0　刈谷
激しい雨の中神戸ペース。10分、藤井からのパスを原田ドリブルシュート。15分右サイドの豆成から須浦へ渡りシュート。後半23分原から相手バックスにはね返ったボールを混戦から藤井がプッシュ。
▷1月4日（リーグ戦）
神戸　1—0　庵原
後半4分右CKから混戦。藤井がスライディングをしながらボールを押しこみ得点。
▷1月5日（親善試合）
神戸　4—1　小島中
大雨もあがり乾いてきたので、1対1で崩してのパスと、長いパスを大切にするように指示。18分長谷川20mのシュート、GKはじく、原田から原、樽谷へ渡りフリーでシュート。21分鈴木が右に流れながら縦パス、原がシュート。12分須浦左からGKをこえるパスを原へディングシュート。残り5分で相手ハーフのドリブル・シュートがバウンド変り失点。
▷1月5日(リーグ戦)神戸　2—1　清水六中
1次リーグ最終戦を勝利で飾ろうと気力充実。前半動きの量が少なく一進一退が続く。13分豆成のセンターリングを原田が押し込み先制したが、16分相手のドリブルに対する反応が遅く相手との距離をあけてしまいシュートタイミングに誰も飛び込むことができず、そのままシュートされ追いつかれた。
後半、徐々にペースをつかみ始めたが、なかなか得点につながらずあせりのみえ始めた23分左サイドで原のドリブルシュートが相手に当り原田が左から右へ横切るパス、鈴木がスルー、藤井がエリア附近からシュート。
▷1月6日（決勝トーナメント1回戦）
神戸　0（0—0）2　清水トレセン中3
前半3分Pエリヤから5m附近、ゴール正面のFKを小野山がシュートしたがバーに直接当て、クリヤーされる。五分五分の攻防。後半清水は本来の個人技を主に10m以内のパスを細かくつなぐ攻めを始め、8分右からのボールに逆サイドから走り込んで来た選手にボレーでシュートされる。18分鈴木のシュートがボール1つ分はずれる。残り3分全員攻撃をかけたが奪えず、逆襲から混戦になり失点。

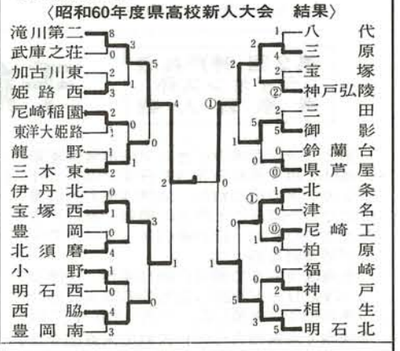
神戸市中2選抜チーム【監督】谷口忠男（鷹匠中）【代表者】石川靖彦（桜が丘中）【コーチ】川並浩司(塩屋中)安福幸男(大池中)【選手】GK金田健之（神戸FC）神川聖（高倉中）DF福井健之（神戸FC）棚倉真樹（千歳SC）松田誠一（布引中）西尾泰紀（鈴蘭台中）川田孝広（魚崎中）MF長谷川聡（千歳SC）藤井泰之（神戸FC）鈴木敬（鈴蘭台中）坂中顕哉（桜が丘中）樽谷朋也（西代中）小野山量大(神戸FC)FW原田定則(千歳SC)小林弘和(神戸FC)豆成修（鈴蘭台中）須浦興一(西代中)原房美(上野中)

60年度兵庫県高校新人大会

滝川第二高　初優勝

昭和60年度県高校新人大会は、2月9日から23日まで、神戸市立中央球技場を中心に行われ、滝川第二高が決勝で三原高を2対0で破り初優勝した。

〈昭和60年度県高校新人大会　結果〉



充実のモルテン Tango
サッカー界の新しい
MTF5AD
molten
Selected cow hide
Made in Japan
Official FIFA World Cup design
株式会社 モルテン
広島／東京／大阪／名古屋／福岡／札幌

日本サッカーにルネサンスは起こるか？（26）

枚方FC　近江　達

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。

われわれは本当にチームワークが良いのか？

日本人の集団性は卑屈なタテ型で、権威をもったリーダーがいるときは秩序と効率を誇るが、それを欠くとモップ化するという特性が強い。　会田雄次

日本人のチームワークや組織への忠誠は世界的に有名だが、それなら組織作りも上手かというと、決してそうではない。またまた第二次大戦の話で恐縮だが、山本七平氏によると、当時の捕虜収容所はまるで民族秩序発生学実験所の観があった。

英米人捕虜たちは自治能力が優れていて、生活に必要ないろんな組織を設け、裁判所を作って規則違反者を裁判した収容所さえあった。彼らがそうして自分たちで秩序を作り出してその中で生活したのに対して、日本人捕虜の方は、敗戦で階級差がなくなり全員が平等になったとき秩序が消滅した。人脈金脈暴力が支配しリンチが横行する動物的世界と化した収容所さえ出現したそうである。

現代の本格的長期戦は昔のような軍隊だけの戦いではなく、食糧、資源、産業、輸送、行政など、経済力から次代の国民の教育まであらゆる部門すべての分野が関与する総力戦であって、各部門の努力とそれらの機能的統合連系が強く要求される。いわば国という巨大なチームが戦うわけだから、チームワークが大切である。その点、何といってもアメリカの統合力は大したものだったし、欧州勢もまた、「われわれは異なる組織間の調整統合や連系機能発揮には自信がある」と胸を張ったが、日本は完全に落第だった。

親分子分のタテ社会なので、それぞれの部隊内、役所内、会社内といった組織内のチームワークはまずまずとしても、ちがった大組織同士になると、セクショナリズムが強くて全くチームワークがとれない。官僚的で臨機応変の創造性に欠けるためもあって、連系能力は最低だった。この傾向は今でもあまり改善されていない。

話をサッカーに戻そう。日本の代表チームを見ているとよく思うのだが、日本選手は皆小さい頃からずっとチームワークのサッカーを教えこまれて大きくなるのだから、代表選手ともなればその道の達人揃いにちがいない。それなら、個人プレーこそ欧米人に劣っても、チームワークでは彼らを上回っても不思議でないはずである。ところが実際はどうもそれほど巧くいかない。急造の選抜チームなどはあきらかに外人の方がチームワークがいい。日本人のチームワークがいいのは、それぞれが本来所属しているホームチームでの話なのである。

というのは、日本選手のチームワーク、チームプレーは、"同じ釜の飯を喰った仲間"という言葉で象徴されるように、感情や情緒、共同生活とか反復練習で生まれる慣れや反射行動などによってかもし出され作りあげられていくものであるために、完成までに相当長い年月がかかる。だから馴染みのない選手とは巧くいかないし、短期間ではとてもまとまらない。

だが欧米選手の方はオーケストラなので、そんな手数はいらない。たとえ初対面の選手とでも、お互に技術戦術的に理解し合って協調連系していけばいいので、短期間でも何とかなる。少なくとも日本人よりははるかに良いチームプレーができるわけである。

> チームワークというとすぐ仲良しということを連想するが、それは勝つ第一条件じゃない。低いレベルで手を握り合うのでなく、一人ひとりが力をつけお互に尊敬できないとダメだ。
>
> 松尾雄治

こうして考察してみると、優秀と信じられてきた日本人のチームワークも実はマユツバで、チームワーク教育にはかなり弊害があるし、チームワークそのものにも相当問題がある。なぜチームワークが必要か？　むろん勝つためであって、教育のためではない。それなら勝てる可能性の高いチームワークを追求すべきだ。だが現実は必ずしもそうではない。

「自分を捨てて皆と仲良くすることが良いチームワークだ」と多くの選手たちは信じている。「皆でやるのがチームプレーだから」と、一人で得点できる場面でもパスを回す本来転倒の光景も珍らしくない。元来社会の常識がそういうものである上に熱心にチームワークを教育されるため、勝利よりも仲良しチームワークを作ることの方が選手の目的になってしまう。そんな中から独創力豊かな選手が出てくるとは思えない。

よしんばこれまでにない個性的なハイレベルの選手が現れたとしても、いまのような統制管理の強すぎるチームプレーでは才能を発揮しきれず宝の持ち腐れで終ってしまう。

もし本当にそういう選手が欲しいのなら、指揮者が発想を転換してチームワークをオーケストラ的なものに改革することが必要で、そこまでいかないと、いくらいい選手を育てても無駄だし、日本のサッカーはいつまでたっても世界の孤児であり続けるだろう。

出たところを自分で引っこめるか、指導者が削るかして凸凹をきれいにならしてしまうこれまでの盆栽的まとめ方をやめて、個人をどんどんレベルアップしてゆき、お互に理解し合って、出たところは出たままにして良さを生かし合い相加相乗効果を狙う豪快なまとめ方をして欲しい。

このやり方が机上の空論でなく実現可能であることは、すでにラクビーにおいて、天才松尾と新日鉄釜石チームが立派に証明している。サッカーというスポーツの本質からみても、サッカーを楽しむためにも、レベル向上のためにも、選手一人ひとりの才能や個性創造性が伸びれば伸びるほど、より素晴らしいチームプレーとなって実を結ぶオーケストラ的チームワークにぜひ切りかえていくべきである。

写真提供＝上野勝幸

フランスの将軍プラティニは昨年のトヨタカップでその指揮者ぶりを発揮、イタリアのユベントスを世界一に導いた。

今にして思えば、かってわが国の選手たちはおそろしく晩熟だった。下手でどう仕様もなく体力が下り坂にさしかかって、やっと巧くなる。それでもまだ戦術的なことはピンとこなくて、何とかサッカーがわかってきた頃にはもう動けない。体力、技術、戦術を縦軸、年令を横軸にとってグラフにすると、体力、技術、戦術の順に山が三つ、相当ずれてできたものである。

サッカー教育の目標の一つは、三つの山を一つの高い山にして、欧米のように優れたスキルを身につけた、レベルの高い若い選手を生み出すことだが、さいわい指揮者、関係者の努力によって日本サッカーは徐々に進歩しつつあり、グラフも最近は技術戦術の山が以前よりも手前に来て高くなり谷間も狭まってきている。技術改良が漸く軌道に乗ったかにみえる今、次は戦術的能力の躍進をぜひ望みたいところである。

でも考えてみると、われわれは戦術のレベルこそかなり低いけれども、有名な教育熱心で知的水準も高い。矛盾ではあるまいか、何故こうなったのか。現行戦術教育について検討が緊要であろう。

わが国の戦術教育は外国と比べてどうなのだろう。むろん基本的戦術とかプレーの原則は世界中どこでも同じである。しかし、実際やっているサッカーは決して同じでなく、各国それぞれ違う。国民性、習慣をはじめ、受けとり方、表現の仕方、着眼点、重点の置き所、練習法、指導法など、いろいろ差異があるためであろう。たとえば日本チームのトレーニングを見た外人は、よく、日本はコンディショニングを重視しているようだが、もっと試合中の一場面などをとりあげた戦術的練習をやるべきだと言う。野球など他のスポーツでも同じように、体力訓練ばかりで戦術的練習が欠けているといつも指摘されるから、わが国のスポーツに共通した欠点らしい。

モンブランのメインテーマ "スピードサッカー"
基本のプレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ
markam® & Libero®
親しまれるサッカーウェア younger®
リベロメイン06
標準小売価格¥9,800
MONTBLANC
リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社
神戸・東京・福岡